

武豊町議会議長 石原 壽朗 殿

武豊町議会議員 福本 貴久

一 般 質 問 の 通 告 に つ い て

令和4年第2回武豊町議会定例会において、次のように質問したいから通告します。

質 問 事 項	質問の要旨(具体的にご記入願います)
<p>1. 未来の武豊町のために(第6次武豊町総合計画より)</p>	<p>【趣旨説明】 粕山町長は、第6次武豊町総合計画の冒頭のあいさつで、今後10年間で、特に取り組むべき3つの重点施策方針を「住みよいから、住みたいまちへ」「子どもの学び・育ちを応援するまちへ」「みんなが元気に活動・活躍するまちへ」と掲げ、各種施策の具現化を図ってまいります。と、述べている。(註1) この3つの重点施策方針を私なりに読み解くと「住みよいから、住みたいまちへ」は、住みよいは当然のことで、どうしても武豊町に住みたいと思っ頂けるようなまちにする。「子どもの学び・育ちを応援するまちへ」は、子どもや子育て世代のニーズを的確に把握し、行政側から積極的に支援・応援をして行く。「みんなが元気に活動・活躍するまちへ」は、健康寿命を伸ばし、子どもから高齢者まで、いつまでも生き生きと暮らし、活躍するまちとすること。このように解釈をしている。 3つの重点施策を実現するためには、現状行われている行政サービスも低下させることなく、更に独自の行政サービスの充実に向け取り組む必要がある。それには安定的な財源が必要となり、財源確保の施策も実行していかなければならない。そこで現在、本町が行っている医療・福祉・教育などの単独事業を堅持し、加えて新しい行政サービスの提供を目指すために、新たな財源の確保をする観点から、第6次総合計画に記載されている財政や選択されるまち、産業などについて、以下質問する。</p> <p>【質問事項】 ①本町はこれまで順調に人口増加を続けてきましたが、近年では減少傾向を示しており、将来に向けてまちの活気の低下が懸念されます。また、町の財政状況もいつまで堅固な状態で維持できるかは不透明なものがあります。(註2)とあるが、堅固な状態を維持するには、どのような取り組みが必要だと考えるか。見解を伺う。 ②2018年(平成30年)に実施した中生意識調査の今後の居留意向では、67.1%の中学生が「今後も暮らしたい」と回答している。(註3)今後も暮らしたいという思いに、どのように応えていくのか、見解を伺う。 ③定住先として選択されるまちとして、豊かな自然環境と交通の利便性を活かし、良好で潤いのある環境の中で快適性を感じながら暮らせるまちをつくとともに、住宅地としての良好なイメージを形成し、町の将来を担う若い世代を中心に定住先として選択されるまちを目指します。(註4)とあるが、わかりやすい事例をあげ、どのように目指すのか、見解を伺う。 ④産業が持続・発展する活力のあるまちとして、既存産業の集積や多様な地域資源を活用して、既存産業の振興や新たな産業の創出を推進するとともに、町外からの観光交流を活発にすることにより、産業が持続・発展する活力あるまちを目指します。(註5)とあるが、観光交流が活発になると、どのように産業が持続・発展をするのか、見解を伺う。</p>

⑤今後、人口減少が予測されることに伴い、就業人口や就業率等も低下することが見込まれ、本町の雇用力や財政力に影響が出ないか懸念される。新たな企業参入、工業立地、既存工場の増築等の希望に応える、新たな工業用地の確保を検討する必要があります。(註6) また、産業基盤の強化では、新たな企業参入等の促進につながる施策を推進します。(註7)とあるが、新たな工業用地の確保と企業参入等の促進に向け、どのように施策を推進して行くのか、見解を伺う。

- 第6次武豊町総合計画 スマイルビジョン TAKETOYO 2021(R3)～2030(R12)
(註1)1ページ、(註2)7ページ、(註3)28ページ、(註4)35ページ
(註5)37ページ、(註6)126ページ、(註7)128ページ